

4月、イスラエル兵・警察官に自殺11人

パレスチナ・クロニクル編集部、2026年4月26日協浜義明訳



現在進行中のジェノサイドにより、ガザ地区全域で広範囲にわたる破壊がもたらされる中、ガザに駐留するイスラエル兵。(Photo: via QNN)

ガザ・ジェノサイドや相次ぐ戦争のために精神衛生危機が深化、4月にイスラエル兵・警官11人が自殺した。

主な動向

- ・ハアレッツ紙の報道によると、4月にイスラエル兵・警察官11人が死亡した。
- ・うち6人は現役兵、3人は予備役兵、2人が警察官。
- ・ハアレッツ紙は2025年の兵士の自殺は22件あり、増加傾向にあると報道している。

ハアレッツ紙の26日の記事によると、4月に入って少なくとも11人のイスラエル兵と警察官が自殺した。自殺した兵士のうち6人は現役兵で、3人はガザ・ジェノサイドに参加した予備役兵で、自殺時には現役勤務ではなかった。2件の自殺はイスラエル警官で、そのうちの1人は国境警備隊に徴兵された隊員であった。

ハアレッツ紙はまた、2026年に入ってから、少なくとも10人の現役兵士が自殺したと報じている。これは現役兵士だけを対象にした数字で、予備役兵と警察官を含んでいない。

今回の11人自殺報道は、以前にハアレッツ紙がガザ虐殺開始以来イスラエル兵に自殺が増加していると指摘した、その広範な傾向を裏付けるものだ。同紙は、2026年2月特集記事で、ガザに派遣された兵士が後に自殺する傾向を報じた。その中には、軍人自殺と認定されなかった件も多くある。特集記事は、ガザ派遣後、任務を終えた後に精神的圧迫や不安感に襲われることを指摘した。

2026年4月の11人自殺は、これは2025年の自殺者の半数に相当する。2025年のイスラエル兵の自殺者は22人で、過去15年間で最多であった。

ハアレッツ紙の調査によると、自殺増加は、特に過去3年間の長い軍事作戦が兵士に及ぼした持続的な精神的圧力と関連している。ハアレッツ紙は以前何度も、ガザ回廊に派遣された兵士の中に「道徳損傷」や心的外傷が見られると報道した。

「道徳損傷」や心的外傷という事態は、イスラエル軍のガザ・ジェノサイドの中で発生した。パレスチナ民間人の大量虐殺や市民生活の広範な破壊の中で起きた。ガザ保健省によると、2023年10月7日以降、少なくとも7万2000人のパレスチナ人が殺害され、そのうち2万1000人以上が子どもである。国連のデータでも、3万8000人以上の女性や少女が殺害されており、戦闘員より民間人の殺害が圧倒的に多いことを指摘している。町やコミュニティ全体が破壊され、何千人もの犠牲者が瓦礫の下に閉じ込められたままで、死者は報告されているよりもっと多いと思われる。独立機関の調査によると、医療崩壊、飢餓、疫病などによる間接的死亡者や行方不明者を含めると、実際の死者数は発表された数よりはるかに多いという。